

政府における新たな検討の状況について

観 光 庁
平成27年12月24日

明日の日本を支える観光ビジョン構想会議

安倍内閣総理大臣発言概要（平成27年11月9日第1回明日の日本を支える観光ビジョン構想会議）

- **我が国は今、経済を最優先**とし、GDP600兆円を目指した取り組みをスタートさせたところ。中でも、**観光は成長の重要なエンジン**。
- 我が国は、観光立国の大きなポテンシャルを有しているが、**課題も多い**（ホテルがとりづらい、鉄道やバスが使いづらい等）。
- **2000万人は通過点。キーワードは「地方」と「消費」**。ゴールデンルートだけではない、日本各地の魅力を、世界のニーズに結び付けていく。前例にとらわれない、思い切った知恵を出していただき、**しっかりとしたビジョン、次なるステージのロードマップを示していただきたい**。
- **安倍内閣としても、「できることは全て行う」方針のもと、政治が全面に立って進めていく**。

明日の日本を支える観光ビジョン構想会議

【議長】 安倍内閣総理大臣
 【副議長】 菅内閣官房長官、石井国土交通大臣
 【構成員】 麻生副総理兼財務大臣、石破地方創生担当大臣
 加藤一億総活躍担当大臣、高市総務大臣
 岩城法務大臣、岸田外務大臣
 塩崎厚生労働大臣、林経済産業大臣
 (有識者)
 石井至 石井兄弟社社長
 井上慎一 Peach Aviation(株)代表取締役CEO
 大西雅之 鶴雅グループ代表
 小田真弓 旅館 加賀屋 女将
 唐池恒二 九州旅客鉄道(株)会長
 デービッド・アトキンソン 小西美術工芸社社長
 李容淑 関西国際大学客員教授

構想会議開催予定（イメージ）

第一回会議	設置、目的、方向性等
WG	・ヒアリング（数回） ・課題整理・とりまとめ骨子素案
第二回会議	中間報告・骨子案
WG	WGとりまとめ
第三回会議	結論とりまとめ

構想会議ワーキンググループ（WG）

【座長】 内閣官房長官 【座長代理】 国土交通大臣
 【構成員】 内閣官房副長官（政務及び事務）、内閣総理大臣補佐官（地方創生担当）、内閣官房副長官補（内政担当）、内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補（内政担当）付）、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、総務省、法務省、外務省、財務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省観光庁

○訪日外国人旅行者数が増えていく中、多くの訪日外国人旅行者を万全に迎え入れる取組を加速させることが必要。

主な受入環境整備の課題

○宿泊施設不足

- ・東京、大阪等都市部のホテルの稼働率は高い水準で推移
- ・地方の宿泊施設は余裕があるが、外国人受入環境に課題



○貸切バスの路上混雑

都市部を中心に乗降場所での長時間駐車や路上駐車による交通渋滞等が発生



○安全・安心の確保

外国人旅行者が不慮のケガや病気になった際の医療機関等に関する情報提供体制が不十分



○観光地域づくりの体制(DMO)

日本版DMOのような、観光地経営の視点を持った観光地域づくりに携わる組織・人材が必要



○通訳案内士(ガイド)

大都市部への偏在、英語への偏在、ガイドニーズの多様化等、様々な課題が顕在化



○OCIQ(税関・入管・検疫)

空港・港での混雑により、出入国審査に時間を要する事案が発生



これらの課題等に迅速に取り組む必要

観光立国に向けた中長期的な戦略と具体的な主要課題

<中長期的な戦略の必要性>

さらに増加する訪日外国人旅行者が、満足度を落とさずリピーターになってもらえるような、世界に誇る魅力あふれる国づくりが必要

⇒中長期的観点から政府全体で総合的・戦略的に取り組むことが必要

○質の高い観光立国

- ・旅行者数への対応、消費額、サービスレベル、地域の魅力づくり（文化、景観を含むコンテンツ）、地方への訪問、国内観光の振興 etc.

○国の姿・社会のあり方

- ・内外からの交流拡大による国・地域の活性化
- ・少子高齢化社会における観光サービスの質の維持・向上
- ・外国人との日常的な共存 etc.

<次のステップに向けた具体的な主要課題>

○視点

- ・投資拡大、生産性の向上、地方への分散、消費拡大、国と地方の役割分担、安全安心の確保、多様な観点からの旅行者の満足度の向上 etc.

○取り組むべき課題（例）

- ・景観・まちづくり・インフラ整備、交通網の充実、宿泊等観光産業の育成・強化、教育のあり方、人材育成
- ・文化財、伝統工芸、農業、自然公園の活用
- ・医療・保険、富裕層、リピーター確保、バリアフリー、休暇、データ・ICT
- ・投資拡大のための規制緩和、融資制度、税制
- ・観光関係諸施策のための財源 etc.